

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	18 日	記入者	中西 環
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	神末(こうずえ)のカヤの巨木林				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2005年(平成17)3月29日				
所在地	宇陀郡御杖村神末				
所有者 管理者	個人				
員数	9本				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) カヤ			(樹齢) 400~600年?	
案内板の状況	無し				
公開	一般的には非公開。御杖村役場観光課へ要問合せ。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(個人宅裏山なので鑑賞しやすいように整備されている)				
当面の課題	県からは保存状態や現状などの問い合わせなどは無いが、台風などがあると御杖村からの問い合わせが入るので、県としての管理・現状把握が望ましい。				
今後の課題	カヤの利用を目的とした業者が裏山から侵入しやすいので、県指定天然記念物としての説明板・案内板の設置を望む。				
その他 (由緒など)	宇陀古民家住宅として、「明治・大正・昭和初期の古民家を大切に作る会」の登録古民家の裏山にあるカヤの巨木群。宇陀東山中の付近には昔からカヤが多く植わり用途の多いカヤは年貢の一部にもなっていたようだ。隣の三重県名張市にはカヤの油を搾ってくれるところがあったこともあり、生活の糧としていたので自宅に植える人も多かった。				
コメント	御杖村の観光に力を入れたいと持ち主の強い思いで遊歩道をお手製で作られていたようだ。巨木のある民家の裏山にはムササビやホンドリスが生息し、今もカヤの実(種子)を食べていると聞いた。アーモンドのような種は一般的には伊賀のかたやきなどにも使用されていたそうで、灰汁抜きして天日に干して炒ると香ばしいと聞く。また種子に含まれる油脂も豊富なため社寺などの灯明などにも使用されていた。カヤ材はその強度から仏像などにも広く使用された(庭木図鑑 植木ペディアHPなど参照)				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	10 月	18 日	記入者	中西 環
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	神末(こうずえ)のカヤの巨木林
------	-----------------

登録古民家 今西家住宅	登録古民家 今西家住宅(背後がカヤ巨木群)
-------------	-----------------------



民家裏山よりカヤの巨木

全体像



カヤを祀る祠と灯ろうは持ち主のお手製

カヤの苗木(樹齢3年目)

